

びっくりりさつまいも

平成十四年 五年女児

「なんだこのなえ、小さいなあ。」

五年生の春。学年の畑に植えるさつまいものなえをも
らった時、私のなえはすぐ小さくて、ひよろひよろし
ていた。そんな弱そうななえを見て、私は、こんなの育
てたくないなあと思った。

それでも、私は毎日水やりを忘れずにがんばった。し
かし、夏の暑い日はやっぱり水やりに行くのが面倒くさ
くなり、一日だけならいいかと、水やりに行くのをさぼ
ってしまった。

次の日、いつものように水やりに行くと、黄色になっ
てしぼんでいる私のなえがあった。私は、じょうろにい
つもの倍の水をなみなみと入れて、かけてやった。それ
でも、なえの具合は悪くなるばかりで、ついには葉も全
て落ち、枯れてしまった。私は、まだ生きているんだと
信じていたが、友達の、

「そのなえはもう枯れているよ。水をかけるだけ無だ
だと思ふな。」と言う言葉を聞いて、世話するべきかとも
なやんだ。しかし、やはり毎日世話をすることにした。

そのかいあってか、枯れてから一週間たったある日、
私が水やりに行くと、枯れていたくきから新しくくきが
出てきていた。私は、大喜びして、近くにいた友達にそ
のことを告げて回った。友達もそのことにはおどろいた
ようで、無だだとは一言も言わなくなった。それからも
ずっとくきは伸び続け、秋にはすっかり大きくなり、り
っぱななえになった。

秋の中ごろ、いもほりをするこゝになり、クラス全員
で畑に行った。畑は、土が見えないぐらいにさつまいも
でうめつくされていた。自分のなえを見てみると、ちが
うなえのつるにからみつかれ、なえに比べて小さく、今
にも押しつぶされてしまひそうだった。とりあえずいも
をほってみると、なかなか出てこなかった。あきらめよ
うとした時に、小さいつるがうまっているのを見つけ、
ぴんときてほり起こしてみると、おせじにも大きいとは

言えない小さいいもが見つかった。食べるところもなさそうないもだったけど、一回枯れてしまったなえからできたさつまいもだと思つと、りっぱに思えた。

家に帰つて、さつまいもでスイートポテトを作つたら、とても甘くて、おいもの味がすごくした。でも、これは他の人のいもだから、自分のいもがおいしかったかどうかは分からないけど、きっと、小さいながらにおいしくて、食べた人を喜ばせたと思う。結果はどうあれ、私はそう信じている。

来年も学年で何かを作ると思つるので、その時は、大切に面倒を見るようにしたい。